

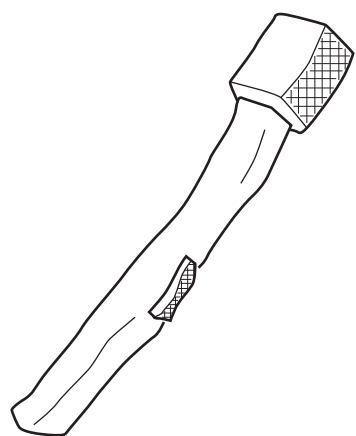
工事の げんば 現場より

ひわだぶきしよくにん どくとく しょうかい
桧皮葺職人さん独特の道具を紹介するよ。

道具編



かなづち



竹くぎを叩き打つ時に使います。竹くぎと一緒に握りこんで使うので、柄の形は使う人により様々。使い勝手が良いように、一般に柄は自作するそうです。

さんこう
参考

だいく
大工さんの
かなづち

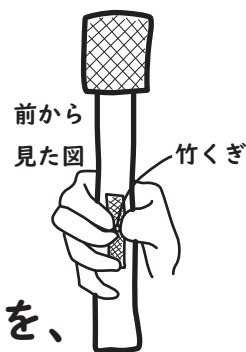
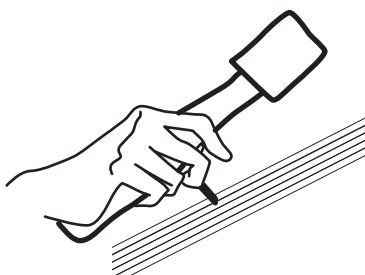


竹くぎの打ち方

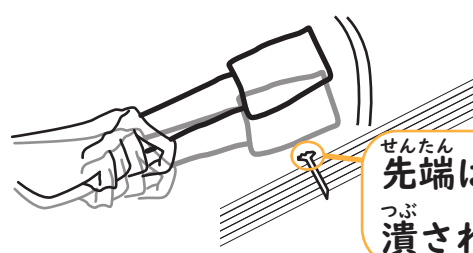
①口に含んだ竹くぎを、尖っている方を内側にし一本ずつ口から出します。



②口から出したくぎを、かなづちの柄と一緒に握りこみ、柄の途中の金具を使って押し込みます。



③押し込んだ竹くぎを、かなづちの上の部分で「トントン」と叩いて打ち付けます。



ちよんな (ちような)



横から見た図

屋根の端部分の厚く重ねた桧皮の層＝「軒付」を切り揃えるのに使います。

さんこう
参考

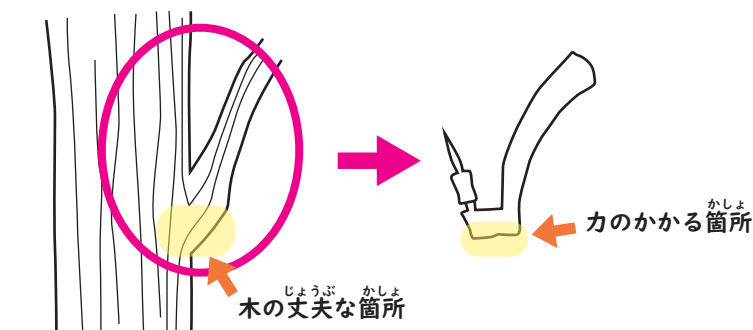
だいく
大工さんの
ちよんな



横から見た図



ちよんなの使用例



独特な柄の形は、木の枝部分から切り出され作られたもの。力のかかる箇所は、木として丈夫な箇所を充てています。